

檀原市特別職報酬等審議会 2 回目 会議録

- 1 日 時 令和4年11月16日(水) 午前10時から
- 2 場 所 本庁本館4階第1会議室
- 3 出席者 委員 田中会長、森嶋委員(職務代理)
50音順 上田委員、佐藤委員、辰井委員、柘谷委員、森脇委員、山中委員、吉田委員
事務局 戸田企画戦略部長、細川企画戦略部副部長、竹村人事課長(司会)
河合人事課課長補佐、寺本人事課給与係長、末廣人事課主事

(1) 開会

(2) 審議

1. 第1回審議会内容の確認

- ・資料に基づいて特別職等の報酬額その他市比較(県内12市、類似団体24市)を行った結果、県内では高く、類似団体では平均かやや低い状況
- ・財政状況の比較では県内では上位、類似団体では平均
- ・社会情勢として、国の統計(勤労統計調査)では給与総額は増加(消費者物価指数)も増加
- ・前回の報酬等審議会においても県内・類似団体比較を元に答申
- ・審議の方向性として、報酬額の審議の対象は減額前の報酬額。減額後はあくまで資料
- ・財政状況について、赤字・黒字等を参考とする

2. 特別職の報酬等について

3. 行政委員会の委員報酬等について

【資料】

- 資料 1 類似団体24市(Ⅲ-3)一覧(人口100,000人以上150,000人未満)
- 〃 2 檀原市特別職報酬額の推移
- 〃 3 檀原市特別職・一般職給料月額・年収比較表
- 〃 4 県内12市 特別職報酬額(月額・年収)(本則)

- ” 5 県内12市 特別職報酬額（市長・副市長・教育長）減額措置状況
- ” 6 県内12市 特別職報酬額（月額・年収）（減額調整後）
- ” 7 県内12市 特別職報酬額比率一覧
- ” 8 類似団体24市（Ⅲ－3） 特別職報酬額（月額・年収）（本則）
- ” 9－1 類似団体24市（Ⅲ－3） 特別職報酬額（市長・副市長・教育長）減額措置状況
- ” 9－2 類似団体24市（Ⅲ－3） 特別職報酬額（議長・副議長・議員）減額措置状況
- ” 10 類似団体24市（Ⅲ－3） 特別職報酬額（月額・年収）（減額調整後）
- ” 11 類似団体24市（Ⅲ－3） 特別職報酬額比率一覧
- ” 15 近年の景気動向
- ” 16 人事院勧告の実施状況（行政職（一）関係）
- ” 17 檀原市給与削減状況
- ” 18 ラスパイレス指数、平均給料月額等の状況（県内12市、類似団体24市（Ⅲ－3））
- ” 19 県内12市 財政状況
- ” 20 類似団体24市（Ⅲ－3） 財政状況
- ” 21 令和3年度 決算状況等調査表
- ” 22 平成25・28・令和元年度特別職報酬等審議会答申概要
- ” 23 用語

【質疑応答：特別職】

会 長：今回は審議会として報酬額を具体的にどうするか、方向性を纏めないといけない。次回の審議会では答申の審議となる。審議の対象は減額前の本則であり、実際の報酬は減額されているがこれは事情として。

昨日のニュースでは実質所得が▲0.3%。名目賃金は上がっても実質所得が下がって生活は厳しいというものもあった。報酬額をどうするか。上げる、下げる、据え置くの何れかになる。

委 員：前回の委員会で財政状況など色々な議論があった。その中では上げるというのは無いのではないかと。逆に下げるとなると現在、10%減額もされている。その金額まで下げるというのも有りうるが、他市比較では下がってしまう。県内第二の市の市長として報酬は安すぎてしまう。このまま現状維持で良いのではないかと。減額の幅についてはその時の財政状況等から自主的に判断されて良いのではないかと。

委員：先進国の中で昔は給料は高かったが今は低くなってしまっている。12市、類似団体の中で報酬額は特に大きいというわけではない。色々な分野から委員は来ているが、市長は非常に激務だと思う。どこかが先陣を切って報酬を上げていかないといけないので、報酬は上げるべきだと思う。

委員：現状維持の意見には賛成。市長は財政状況が苦しい、赤字であると言っている。だから補助金はカットされていると。そう考えると報酬額を考えると他に市との比較は関係ないのではないかと。補助金をカットしているなら自身も身を切るべき。現状10%カットだが更に5%足して15%自らカットと言ってほしい。

委員：報酬額の類似団体とか比較したなか、自主的に減額されているが現状維持で良いのではないかと。今後は、市長や議員が自主的なカットについては自身で考えていただければよいのでは。

委員：どう上げるか下げるか、今の資料から判断基準は難しいことから現状維持で良いのではないかと。

委員：基本的に赤字財政だったら上げようにも上げられない。報酬額を上げられるような財政基盤を作っていくのがまずは基本。財政が黒字になりそうであれば上げて良いのでは。企業の場合、赤字になれば経営陣は自身の給与の減額に動く。行政なので税収が関係してくると思うが、税収が上がるような努力をしながら、財政が健全化になれば報酬は上げて良いのではないかと。赤字ではなく黒字ということであれば、給与を上げて良いのではないかと。健全財政になるような努力をするべき。

委員：現状維持で良いとは思いますが、審議会で各委員が言った意見などを答申に盛り込めたら良いのではないかと。

委員：資料22（過去の答申）によると、過去の審議の中で県内・類似団体比較などを行った結果、大きな差が無いので現状維持となっている。色々な意見があるなか、財政状況についてもあったが、独自でカットもされていることを考えると現状維持で良いのではないかと。

会長：補助金を減らされているという話だが、結論的にはどうしたいのか。

委員：結論としては現状維持で行ってよいのではないかと。ただ今10%カットしているが、自主的に15%くらいはカットしてほしい。

福祉関係の話として、職員自身の賃金カットに及ぶのが困るのでパートを切って職員がその人の仕事までする状況。各小学校区に地域福祉推進委員会があるが、自身は立ち上げに携わり、これは社会福祉協議会の職員とともに2年かけて作り上げ、16年からスタートした。はじめ、社会福祉協議会の持っている共同募金会のお金で16小学校区にお金を少しずつ配分し活動を始めた。ところが、活動するには更にお金が必要となり、そこに榎原市が地域福祉という言葉を目指している中の1つに入れたいというようなことがあり、そうすると補助金を出さなければならず、1校区9.5万円出された。ところが、今交渉中ではあるがその補助金は財政が困難なので出せないと言われた。補助金を出せないのなら口を出して欲しくは無いし、指針の中から地域福祉という言葉が消して欲しいという話になっている。このような話をしているような状況で、市長の給与をあげるのはいえない。活動は停滞している。強く憤りを感じている。

会長：〇〇委員と同様の意見でしょうか

委員：同じです。下げるという選択もあるが、そこは自主性に任せてよいのではないかと。

会長：現状維持という意見ではあるが、そこには厳しい意見が付いている。同時にカットもしているが更にカットもして欲しいという意見。現状維持と言いながらバックグラウンドは少し違う。市は黒字ではあるが行政サービスの現場では赤字と言っているのか

事務局：数字上では赤字では無いが、これから事業もあるし、財政基金も少ないことから厳しい状況は続いているということ。

委員：それならそういう状況であると資料には載せるべき。今後赤字になるかわからないので赤字と云ってまずいいのなら、今回の資料にも今後の赤字見込みを載せないといけない。

会長：〇〇委員、税の専門家として財政状況はどうか。

委員：一般企業が専門なのでわからないが、借金がかかなりある状況なら将来的に返済に充てる必要があるのでは。将来不足が生じるのでは。

委員：財政状況の説明の中で、黒字理由としてコロナ関連の補助金等があったという説明があったが、そうすると今後はこの部分が減ってくる。市民施策は何年も前から減額が続いている。市の事業は市民が安全安心に暮らせるのが目的。今までして来た地域での活動が停滞しているのは外から見ていてもわかる。その事業に携わっている方もお金が無いので色々工夫しながら現状維持しているのが現実。それを見据えて市民にかなりの負担をかけていることから、維持ではなく減額についてもう少し考えたらどうか。本則を下げるとうのはどうかと思うが、今の市民生活の現状を考えてもらえたらよいのではないか。

事務局：財政緊急事態宣言が出て、将来を見据えたうえで緊縮財政を行っているが、この場においては財政というの1つの要素。先ほど委員がおっしゃられたように世間一般的にどうなっていくかについても要素。それぞれの中で議論をしてもらうのがこの場。現状維持という意見が多いが、この場で出た意見を答申の中に入れさせてもらい、答申案を次回に出させていただければと思う。

会長：厳しい中にも頑張れという主旨の現状維持というのが全員の意見。ボランティアとか末端の行政サービスは大切と思うが、赤字という中でカットされていることが問題となっている。このことについては参考意見、厳しい意見があるけど現状維持という主旨でよいのでは。

委員：私たちの意見を答申案に明記するということか。

事務局：答申の中に各委員のそれぞれ細かい意見を載せるということは無いが、赤字財政の中でという意見や、賃金を上げていかなければという意見、財政状況を鑑みて市長自らカットしてということ載せる。次回の答申案で示します。

委員：今市長の給与を上げると反発が来る。現状維持と将来を見据えて赤字宣言をしたというのなら、将来を見据えて20%カットしたらよいのではないか。

委員：税理士の立場として、最近ふるさと納税の話がある。私がお隣の市にふるさと納税をすると檀原市の税収が減る。返礼品目当てということではないが、檀原市はふるさと納税で他市に税金を取られているのではないかと。どれだけ流出しているかの確認は必要。

会 長：財政状況について、資料19・20に指標があり、県内12市、類似団体の比較がある。ここからは赤字赤字と言いながらそこまで悪くはない。ただ、将来負担比率は良くない。今の財政状況はそれほどでは無いが将来は厳しい。

事務局：現時点での財政状況は実質収支や財政力指数・経常収支比率で表され悪くは無いが、将来負担比率は将来返済しなければならない借金を元に計算されており、他市との比較では課題はある。

会 長：特別職の報酬については現状維持で。次に議員の報酬について審議します。内容については市長の審議と関連があると思うが意見は。

委 員：市長の報酬の時と同じく現状維持という形で後は、自分達で身を切るところは切るという事で良いのではないか。

会 長：議員定数を減らしているという経緯もある。そういうことも含めて、また他市と比較してそれほど高くないことから現状維持で。ただ、財政状況は厳しいのでという参考意見付きでよろしいか。事務局として見解はあるか。

事務局：他市との比較では県内・類似団体比較ではやや高いが、年々議員定数を削減している。H17年では26人が現在23人となっている。このことから人口あたり議員数は県内・類似団体ともに少ない。人事院勧告では増額の話があり、現在の財政状況も赤字ではない。このことから据え置きが妥当。

会長：人口は県内第二の市か

事務局：奈良市の次

委 員：生駒市に間もなく抜かれる

会 長：生駒市と橿原市はよく比較されてきた。その中で生駒市と報酬額は同等でもあるので議員報酬についても現状維持で良いか。

委員：了承

【質疑応答：行政委員会委員】

会長：次に行政委員会委員の報酬ですが、前回農業委員のことを特に審議しましたが今回はどうか。

事務局：今回は特に農業委員の給与形態の変更があり審議いただいたが、今回は特に制度変更や仕事の内容の変更などはありません。

会長：前回から特に変更が無いので現状維持でよいのではないか。

委員：教育委員が日額から月額に替えたのは前回か。

事務局：前々回に審議頂いた。

会長：凡その方向性は出たのではないか。厳しい中での現状維持ということで。

委員：了承

事務局：今回の意見を受け次回答申案を示し、審議いただく予定。

（3）次回開催日程

第3回 令和5年 1月16日（月）午前10時から 本庁4階 第1会議室